

## 奈良市学校規模適正化検討委員会（平成 26 年度第 1 回） 会議録

1 日時 平成 27 年 3 月 27 日（金） 午後 2 時～4 時

2 場所 奈良市役所北棟 6 階 第 22 会議室

### 3 出席者

【委員】 重松敬一委員、岡毅委員、竹村健委員、岡田和大委員、  
大迫珠美委員、池住寿弘委員

（欠席 井上芳恵委員、熊本品子委員、長浜博己委員、  
岡田修委員）

【市職員】 教育総務部長、学校教育部長、教育委員会事務局理事、  
子ども未来部参事、教育総務課長、教職員課長、学校教育課長、  
保健給食課長、地域教育課長、子ども政策課長、教育政策課長

【事務局】 教育政策課職員

### 4 会議事項

- (1) 学校規模適正化の進捗状況について
- (2) 学校規模適正化後期計画(案)について
- (3) その他

※全て公開で審議。(傍聴人 0 人)

### 5 配布資料

- 学校規模適正化の現在の進捗等について
- 学校規模適正化検討協議会ニュース
- 学校規模適正化に伴う統合再編に係る校名等について
- 両協議会代表による校名等協議会
- 帯解小学校、興東館柳生中学校 校章・校旗・校歌
- 学校規模適正化後期計画(案) ～統合再編の基準～
- 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引

## 6 議事の要旨

- 課長あいさつ
- 事務局が進捗状況について説明

### (1) 帯解・精華小学校の統合再編について

- 平成20年11月28日に精華地域で第1回学校規模適正化推進協議会が設置された。実施計画案の中で平成22年4月より実施したい考えが示されたが、その中で「精華小学校の帯解小学校への統合再編」という文言があり両校が平等に扱われていないという意見をいただいた。その後、協議会が中断するという事態になった。保護者の皆さまへの説明会、社会福祉協議会の場での地域の皆様への説明をし、精華地域の自治会長へ協議会の開催をお願いした。平成25年12月16日社会福祉協議会で今後は協議会を開催して検討していくことになった。学校規模適正化推進協議会から学校規模適正化検討協議会に改称して実施された。中期計画の際に帯解小学校との統合再編を検討するとさせていただいた。平成26年5月7日に精華地域での第1回検討協議会を開催した。協議を重ねていただき、8月11日の第4回の協議会から統合再編に向けて具体的な話し合いを始めていただいた。2学期の始業式の日、精華小学校、帯解小学校両校の児童、保護者の皆様に平成27年4月の統合再編を伝え、学校PTAの皆様及び教職員との打ち合わせ、子どもたち同士の交流会を行い準備を進めてきた。3学期には朝の登校からバスを利用して交流学習を行った。
- 帯解地域で5回、精華地域で7回の協議会を開催しており、4月に両地域で最後の協議会を実施する予定。
- 帯解・精華小学校統合再編で校名を決定する合意には至っていない。事務局案は「校名は【帯解】小学校。校章・校歌については新たに制定する」であり、帯解地域では第5回協議会の場で了承を得た。精華地域では、1月7日の第7回協議会で「事務局案で進めさせて頂く」旨を告げ、1月15日の教育委員会で審議・決定、3月議会で上程し議決された。
- 精華小学校の閉校式は3月29日に実施される。帯解小学校の閉校式は、帯解小学校の場所で統合再編していくこともあり、改めて閉校式を実施することは考えていない。

### (2) 柳生・興東中学校の統合再編について

- 興東地域では平成22年12月15日奈良市東部地域における学校統合問題における要望書の中で早期の統合を強く要望された。平成25

年3月26日第1回興東地域学校規模適正化検討協議会を設置、中期計画に従って旧大柳生小学校跡地で統合再編をしていく方向で推進していただいていた。

- 柳生地域では昨年度全ての小中学校の保護者の方々に聞き取り調査を実施した。「地域の代表の方々と話をしたい、学校規模適正化について協議会を設置して話し合いを進めてもらいたい」という要望があり、平成26年7月31日第1回柳生地域学校規模適正化検討協議会を設置し、統合再編について協議を進めていただいた。11月21日の第4回検討協議会で、現在の興東中学校の場所（旧大柳生小学校跡地）で統合再編を行うという同意をいただいた。
- その後、両検討協議会からの代表6名で平成26年12月16日、12月28日、平成27年1月9日の計3回の話し合いの場を設け統合再編に関わる原案を作成した。学校名に関わっては、柳生・興東ともに名前に歴史があり地域の思いもあることなどから様々な意見が出た。しかし、校名が決まらないと4月の統合ができなくなる可能性もあるので、子どものことを最優先に考え、話し合いを重ねた。両方の名前を残す「興東館柳生中学校」を統合校の校名とすることで、両地域の合意を得て、「奈良市立学校設置条例」を上程し3月議会で議決された。なお、校章、校歌（歌詞）については生徒や地域住民に公募し、校歌（作曲）は、専門家をお願いをする形で制作する合意を得て、制作した。
- 閉校式、記念誌については、学校と調整し、柳生中学校閉校式が3月22日、興東中学校閉校式が3月24日に行われる。

### (3) 都祁地域の4小学校の統合再編について

- 都祁地域に学校規模適正化の説明に入ったのが平成23年6月7日である。奈良市学校規模適正化中期計画では、並松小・吐山小・六郷小の過小規模が継続すれば都祁小を含めて統合再編を検討するとなっている。
- 平成23年7月に都祁地区自治連合会の皆様へ説明し、同年に小学校教員に、翌年には保護者に説明会を開催した。しかし、この時に並松・都祁・六郷地域では協議会設置に至らなかった。吐山地域では平成23年10月21日に吐山小学校児童数減少への対応を考える会を立ち上げ学校規模適正化に関わって検討していただいた。平成24年3月24日に、複式学級の円滑な導入、児童数減少傾向への抑制に取り組んでいくということを文書にまとめた。平成26年2月に都祁地区それぞれの小学校及び認定子ども園のすべての保護者に対して説明会を行うと共にアンケートを実施した。アンケートの結果は都祁地区全体では前向きな

回答が54%、否定的な回答が11%であったが、吐山地区では前向きな回答が9%、否定的な回答が46%であった。

- 平成26年度には学校規模適正化検討協議会を並松地域（10/7、3/3）、都祁地域（10/11、3/2）、六郷地域（10/9、3/4）で各2回開催した。3地域については、様々な意見をいただいた上で「都祁4小学校を、都祁小学校又は都祁中学校敷地内で統合再編していく」ことをそれぞれの10月の協議会で合意をしている。吐山地域（2/7）では、学校規模適正化に関する打合せ会を開催し、統合再編を前提とせず、統合再編を含めて吐山地域の教育環境をどうしていくのか引き続き協議していくことになった。
- 都祁地域の子どもの数の減少が続くことから、平成29年4月を目途に4小学校を都祁小学校、または都祁中学校の敷地内で統合再編をしていくことについて、奈良市として決定をした。3月2日～4日に並松・都祁・六郷地域の3地域で協議会を開催しその旨を伝えた。吐山地域では自治会長に伝えるに止まっている。平成27年度から吐山地域でも協議会を開催することについて了解していただいた。平成27年度予算に都祁小学校の校舎建設設計予算を計上し、3月議会で議決された。
- 現在、4地域の統合再編に対する足並みが揃っていないわけではないが、しっかり説明をしていき平成29年4月の統合再編を目指す。統合先は都祁小学校又は都祁中学校の敷地内のどちらになるか決定していないが、平成27年度の早い時期に決定していきたい。

● 委員が意見交換

岡委員☞ 大きく進展した。教育委員会の努力が実り、大変喜ばしいこと。

「精華地域では了承にいたらず」とは校名や校歌の問題か？統合再編そのもののことか？

- ➔ [教育政策課長] 「精華・帯解のどちらでもない新しい名前にするべき。統合再編ということであれば、それが対等である。」というのが精華地域の意見である。「帯解小学校の場所で統合再編するので名称は変える必要がない」というのが帯解地域の意見である。

市教委では県下全ての統合後の校名について調べた。新しい場所で統合する場合は新しい名前、2校のどちらかが母体の場合は、母体になる学校つまり子どもが集まってくる学校の名前を変更していない。ただし、例外として、1小1中の場合は中学校の名前に、1市町村に1校のときはその市町村名にする。また、「互いの学校がスタート」ということで、校章校歌は新しくなった。

精華地域の協議会は校名に納得していないが、4月の統合再編には反対

ではないとのこと。それを受けて、3月議会に上げさせていただいた。

竹村委員☞ ここまでよくまとめていただいた。

岡田委員☞ 精華地域の反発がすごいと聞いていたが、ここまで進んだのかと思う。吐山を今後どう進めるのか気になる。

→ [教育政策課長] 吐山の協議会はまだ設置されていないが、自治会長から来年度設置の合意をもらっている。その中で改めて、説明していくことになる。保護者の意見の中には、「地域の学校がなくなることについて、大きな声で統合していきたいという意見が言えない。」という意見がある。地域の皆様は学校に協力的で学校のために日々関わっている。そういう人の前で「統合したい」とは言いづらいと聞いている。しかし、現在の吐山小学校の複式学級の状況について、子どものことを考えると良くないことを説明し、平成29年4月に統合する線を進めたい。

地域の皆様も今の状態が良いと思っているわけではないが、学校が地域の核になっている状況もある。教育委員会としてもまちづくりの面を考えると難しいが、地域も活性化できるよう進めていければと思っている。

岡田委員☞ 地域は学校への思いが強い。コミュニティスクール、学校と地域が一緒にやっっていこうという流れ。地域から学校をなくしたくない気持ちはわかる。しかし子どものこと、そのつりあいを取りながらでないといけない。統合後、どう活性化するか成功例を作れたらと思う。

重松会長☞ 地域の活性化をまちづくりとあわせて検討しなければならない。

重松会長☞ 奈良市学校規模適正化計画も本来であれば後期に入っていないといけませんがスタートしていない。事務局から現在の後期計画を報告してもらい、委員の皆様からご意見をいただきたい。

● 事務局が学校規模適正化後期計画(案)について説明

- 本来ならば本年度内に後期計画を策定し提示すべきであった。しかし、1月に文部科学省から新しい統廃合の基準が示されるということがわかっていた。奈良市の計画と大きな隔たりがあると後期計画を修正する可能性があったため策定をストップしていた。国から示された基準が奈良市の基準と合致しており、昨年度原案で示した後期計画の変更の必要はなくなった。
- 後期計画では、適正化の必要な学校に「小規模校の内、統合再編をすることで教育環境の充実を図ることができる」という中身を加えた。新たに統合再編を検討する学校は鼓坂小と鼓坂北小及び右京小と神功小である。特に右京小と神功小は、小規模校ではあるものの、すぐに統合再編をする必要はない。しかし、統合再編をすることで教育環境の充実を図

ることができるとともに、平城西中学校との小中一貫教育の実施も視野に入れている。

➤後期計画は平成27年度の早い時期に策定できればと思っている。その中で、校名の決定方法も示す予定である。統合再編が子どもの教育環境を整えていくという視点で進めていく。

● 委員が意見交換

岡委員☞ 柳生小・興東小は距離が離れているから統合再編を見送るのか？

→ [教育政策課長] 興東小統合前のことだが、当初は大柳生・相和・柳生小学校の3校で統合計画を説明したが、3地域の合意が得られなかった。一番の要因は統合先の場所。柳生小はバスを出すのが通学時間がかなりかかる。特に小学校1年生からとなると、体力的に中学生とは違う。距離から統合を見送っている。

岡委員☞ 統合再編が進んだ一番の要因は何か？高校～大学の接続に関して、アクティブラーニングなどの新しい教育の在り方が問われている。小中学校にも下りてくるとある程度の規模がないとそれらはできない。従来からの教育が大きく変わってきていること、そのために一定規模が必要だと、保護者や地域の方に説明する必要がある。

→ [教育政策課長] アクティブラーニングは文科省の言っている新しい形であるが、これまでの適正化の中では言及していない。今後、新しい学びの形も含めて説明していきたい。統合再編が進んだ一番の要因については、保護者の思いを直接聞いたことが大きい。地域に入って、1人1人に聞いた。柳生は自分の学校への思いが強い地域ではあるが、保護者1人あたりに10分～30分くらい話を聞くと、「学校に愛着はあるが、今の人数ではどうか？」「地域の方々の学校への強い支援があるから声を大にしては言えないが、自分は統合した方が良いと思う」という声が聞こえてきた。その声を地域の代表の方に伝えたら、「保護者がそうおっしゃるなら」と地域の代表の方に協議会で検討する第一歩を踏み出していただけた。吐山でも同じようにしていきたい。保護者の心配は通学の安全である。自転車通学は年に何回か事故があり、帰ってくるまで心配されている。統合してスクールバスになると通学に関して安心できる。それも1つの要因である。保護者の声をしっかり聞いたこと、通学の安心を保障（ケア）したことが大きいと考える。統合して教育が変わり、子どもが変わったことが見えると良い。学びが変わり、学力がさらについてくることでさらに強く推進できる。

重松会長☞ いわゆる現在の学級だけでなく、活性化された学校を見てもらうことが大切である。単学級の先生の負担がクローズアップされている。そ

ういったことも説明して見ていただくことが大事である。

後期計画に基づいて、今の進捗を踏まえながら、地域に適切なやり方で進めてほしい。

- 教育政策課長より事務連絡

本委員会について、学校規模適正化検討委員会の役割は今後も変わらないが、全庁的に懇談会・委員会の見直しがあった。地方自治法に照らして、附属機関・懇談会の位置づけを明確にした。それを受けて、この学校規模適正化検討委員会は条例に定められた附属機関で市から諮問をさせていただいて答申を受けるものではないので懇談会と位置づける。意見・助言をいただくことに変わりはないが、来年度は名称を奈良市学校規模適正化懇談会として位置づけを明確にし、開催する。

- 西崎総務部長よりあいさつ

本年度、帯解・精華小学校が帯解小学校へ統合し、柳生・興東中学校が興東館柳生中学校へ統合した。4月からスタートを切る。それぞれの地域での検討協議会を立ち上げ、最初は教育委員会の意志を示さず、協議会の中での議論を受けて進めてきた。途中、協議会が中断することもあった。その後、保護者アンケートをもとに、「4月に統合する」という教育委員会の意思を明確に示した上で、協議していただくようにした。そうすることによって、地域からの厳しい意見も出たが、より良い教育環境の充実という1点で協議を進めていただいた。まちづくりなど様々な観点が出てきたが、それらを前提にすると統合が進まない。ただ、何が適正な規模なのか、どのような学校の在り方が適切なのか、我々も答えを持っていない。このままではだめだという焦燥感に駆られながら、この1年間やってきた。統合された学校から、以前より良くなったという声が上がって、この答えは出るのだろう。都祁地域の4小学校の統合再編についても、平成29年4月よりスタートすると言っている。それに伴う予算も議会で要求した。それも、より良い教育環境の充実という1点で説明せざるをえない。この委員会の中で、何が適正な規模なのか、どのような学校の在り方が適切なのか、皆様の見識を伺いたい。検討協議会の協議事項の中で2つのことが残った。1つは、通学のこと。もう1つは、学校名のこと。通学のこと、何とか要望には応えられた。ただ、学校名のごことは、様々な思いがあり同意が得られなかった。今後の課題である。来年度は、委員会の名称が変わるが、意見・助言を今後もお願いしたい。